

2017年のIGCJを振り返って

目的

- 毎年最初の会合で、IGCJは前年の活動を総括しています
- これまでのIGCJを振り返り、IGCJメンバーが運営に関して議論した結果を、今後の運営に活かしています
 - 良かった点
 - 続けてほしい点
 - 改善点
 - 提案
 - その他どんなことでも！

IGCJの目的

日本インターネットガバナンス会議(IGCJ)とは

IGCJページでの説明より:

<http://igcj.jp/about.html>

- a. インターネットガバナンスに関して適切な状況認識の上で充実した検討ができる基盤を日本国内に構築する
- b. インターネットガバナンスに関する提言を行いグローバルな方向性への反映と日本国内での実装を準備する

当初の運営イメージ

- インターネットの諸課題を扱う
- 幅広い関係者を対象とする
- 関係者間での共通認識を醸成し充実した検討を行う
- 既存のコミュニティ・活動と連携する
- ミッションや長期的な目標を明確にするため、明文化が必要
 - 趣意書、チャーターなど
- 参加者層は以下に大別できるのではないか
 - プロ: 関連団体役員などで、国際会議に参画する
 - コーカス(caucus): 責任を持った発言を行い、議論に参加
 - オーディエンス(audience): IG諸課題や会合のトピックに関心を持ち、発表や議論に参加

議論の対象分野

体制

ネットワーク
政策

コンテンツ

技術

ネットワーク
運用

利用者

復興

2017年にIGCJで扱ったテーマ

各種イベント報告

- (グローバル)IGF 2016
- Asia Pacific Internet Governance Academy (APIGA) 2017

テーマごとの議論・報告

- フェイクニュースとインターネットガバナンス
- 国際標準化機関を通じたグローバルマーケットへのアクセス
～ ITU-D (電気通信開発セクタ) 等の活動と活用 ～
- I*組織におけるインターネットガバナンス活動や取り組みについて
- IGF 2017に向けた最新動向
- GDPRと改正個人情報保護法を考える
- IGCJ MLの公開/非公開検討にあたっての整理
- セキュリティ・IoTを取り巻く状況
- コンテンツ・データセンター事業者や政府の視点から見たIPv6の今

これまでに取り扱ったテーマの傾向

- インターネットエコシステム／体制論が最も充実
 - IANA監督権限移管／ICANN説明責任
 - ITU関係会議・意見募集
 - 各種会議報告
- 次いでセキュリティ、プライバシー、ネット中立性、IPv6、著作権
- セキュリティは踏み込んだテーマごとの議論の紹介はない
 - ハーグ会議報告とセキュリティドキュメントに関する議論を実施
 - セキュリティに対する考え方文書を作成・公開
 - **未議論例** ・不正アクセスによる資産の盗用、毀損
 - ・暗号へのBackdoor
 - ・広範囲の監視
- データローカリゼーションは一度議論
- まだカバーされていない分野
 - **未議論例** ・技術(IPv6以外)
 - ・ネットワーク運営
 - ・人権(オンラインアイデンティティ、児童ポルノ対策、表現の自由、通信の秘密、中国政府によるブロッキング／検閲の理由・目的)
 - ・ネットワーク政策の中でのインターネットアクセス政策
 - ・プライバシーの中での通信の秘密

提案のあった議論の内容

- ゼロレーティング (IGCJ15採り上げ済)
- インターネットのコストモデル
- インターネットに対する「世代間格差」
- サイバースクワッティング、知財商標権
- トランプ政権によって変わるインターネットガバナンス
- Brexit・トランプ大統領の施策などにインターネットがどのように関わっていくべきか
- 共謀罪等の法的な話題とインターネット監視
- インターネットにおける広範囲の監視
- 児童ポルノ
- (IGCJ自身向け) 行動規範策定の是非
- インターネットの歴史
- 通商政策とインターネット公共政策の接点
- 企業にとってなぜIGの議論が重要か
- 通信の秘密、DPI
- インターネットシャットダウン
- 仮想通貨とインターネットガバナンス
- AIとインターネット
- ネットワーク中立性 (IGCJ2, 6, 15採り上げ済)
- セキュリティ対策、ネットワークについての勉強会
- IGF新規参加者向けブートキャンプ
- 途上国でのビジネス
- 若手がどのようにインターネットガバナンスに関わっているか共有・議論
- 放送と通信の融合
- IGFの運用、役割、意義の将来展開と真のマルチステークホルダー

IGCJに対する主な要望

テーマや回によって、次のような意見あり

- 発表者を詰め込みすぎ＝1テーマあたりの時間が不足
- 全体の時間を30分延長してもよい
- もっと議論に時間を割くべき
- 日本からのIGF参加者を、より幅広い分野から集めるべき
- IGCJに分科会を設けて意見集約のフィールドを拡大すべき
- パネルディスカッションを実施してはどうか
- メディアを招いてはどうか
- IGF-Japanとの協調を早く実現すべき

IGF-Japanとの連携

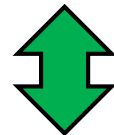
- Japan IGF
 - 日本におけるインターネットガバナンス関連活動
 - IGF-Japan (JAIPAがホストするIGFに関する年次会合)
 - IGCJ
 - IGF-JapanとIGCJの活動に関する報告をグローバルに対して行う窓口としてJapan IGFをIGF本体に登録
 - IGF-Japanの運営委員とIGCJを考える会のメンバーが連携して、日本の活動を広報するとともに日本にフィードバック

IGCJの位置付け

過去、次のような意見あり

意見集約を行い政府のパブリックコメントに意見提出できるように法人化すべき

- 意見集約機能を持たないと国内で発言権が得られにくい



決議や組織として意見提出をするのではなく、課題を共有・議論して各自が持ち帰って対応するための場であり、意見集約・法人化とも不要

- 参加者各自がInformed decision(十分な情報に基づいた決断)を得るための場
- IANA移管やグローバルIGFのような場での意見募集に対しては法人格を持たず日本のコミュニティからの意見という形を取って問題ない

- IGCJの運営について
 - 継続したい点
 - 改善したい点
 - 取り組みたい点・対応案の提案
- テーマについての意見
 - 特に重点的に扱いたい分野
 - 扱ってほしい分野
- その他の意見、感想

皆さんの参加でIGCJが成り立ちます

- 積極的にIGCJの活動に参加しましょう
 - IGCJ会合
 - IGCJメーリングリストでの情報交換や議論
 - IGCJを考える会への参加